

海外種雄牛 2011 - 12 月以降の遺伝的能力評価に係る変更点

2011 年 8 月の国内種雄牛評価から新たに追加した BCS (Body Condition Score : ボディ・コンディション・スコア) について、9 月に行われたインターブルによるテストランの結果、国際評価上問題のないことが確認されたので、12 月から海外種雄牛の BCS の公表を開始します。

BCS とは、栄養管理の状況を把握するために、体脂肪蓄積の目安をスコア化したもので、一般に、1 (削瘦) ~ 5 (肥満) の範囲で表されます。乾乳期や泌乳ステージに応じた適切なスコアとなるような栄養管理を行うことによって、繁殖や代謝性疾患などをコントロールするため、1990 年代以降酪農経営の場で利用されています。

一方、WHFF (World Holstein Friesian Federation : 世界ホルスタイン・フリージアン連盟) は、BCS を他の線形形質と同様に体型的特徴を表す指標の一つと捉え、標準線形形質として記録の収集を各国登録協会に勧告しました。これを受け、我が国でも (社) 日本ホルスタイン登録協会が、BCS の審査を 2007 年から新たに開始し (スコアは 1 (痩せ) ~ 9 (肥え))、これまでに十分な記録が蓄積されたことから 2011 年 8 月に国内種雄牛の遺伝的能力評価を開始しました。

BCS の遺伝的能力評価に用いる記録の採用条件や評価方法は、従来の線形形質の場合と同様で、初産記録を用いた種雄牛評価 (遺伝率 : 0.23)、初産記録に加えて 2 産以降 5 産までの記録も用いた雌牛評価 (遺伝率 : 0.19) を行い、SBV (Standardized Breeding Value : 標準化育種価) で公表しています。

参考 日本とインターブル参加国間の遺伝相関 (BCS)

アメリカ	-0.79
イギリス	0.94
イタリア	-0.76
オランダ	0.94
スイス	0.93
チェコ	0.92
デンマーク、フィンランド、スウェーデン	0.82
ドイツ	0.95
フランス	-0.67
ベルギー	0.76

注 : アメリカ、イタリア及びフランスでは、BCS の遺伝的能力評価に鋭角性を用いているため、負の遺伝相関となっています。